

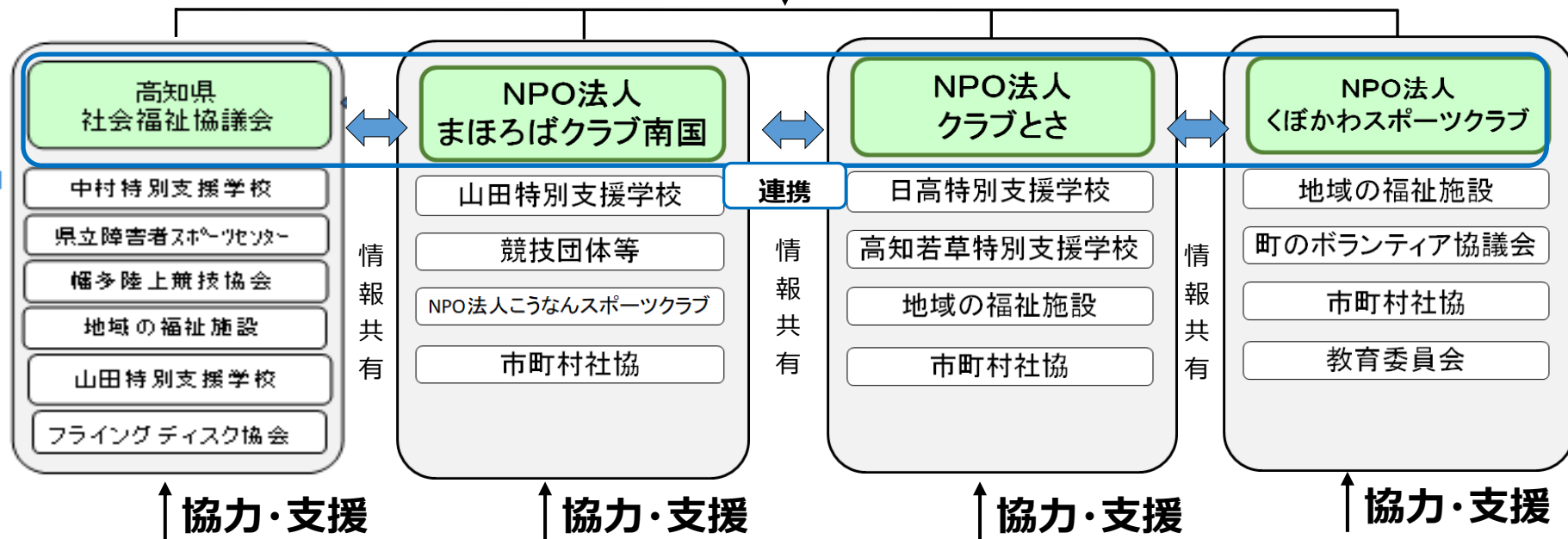
令和3年度 障害者スポーツ推進プロジェクト（スポーツ庁委託事業）

高知県

これまでの取組の成果を生かしつつ、地元の関係者の連携強化に必要な人材の協力を求め、障害当事者以外も巻き込んだ取組を実施することにより、障害者スポーツの活動を継続的に提供・充実させるための基盤づくりを目的として展開する。

委 託

実行委員会



高知県レクリエーション協会 高知県スポーツ推進委員連絡協議会
高知県障がい者スポーツ指導者協議会 高知県立障害者スポーツセンター

A 障害者のスポーツ活動の発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組

高知県
社会福祉協議会

中村特別支援学校

県立障害者スポーツセンター

幡多陸上競技協会

地域の福祉施設

山田特別支援学校

フライングディスク協会

取組内容

- * 障がい者スポーツ指導者運営会議（ボランティア育成・支援体制の構築）及び競技運営会議の開催
- * 県西部地域での障害者陸上競技記録会
- * 県東部地域でのフライングディスク記録会

モデルづくりの視点

- * 競技会への参加の拡大に向けた情報発信や運営の工夫
- * 地域における他の取組の拡充につなげるためのネットワークづくりの工夫

取組の概要

- ・障がい者スポーツ指導者運営及び競技運営会議
➢ 地域の障がい者スポーツ指導員（施設職員、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ職員等）等が地域スポーツの情報交換や陸上競技審判講習会を通じて主体的に障害者のスポーツ活動を支える基盤づくりを行う会議を実施
- ・県西部地域での障害者陸上競技記録会
➢ 幡多陸上協会の協力の下、障がい者スポーツ指導員が運営し、就労施設、特別支援学校（1校）等の障害当事者が参加する記録会を開催
- ・県東部地域でのフライングディスク記録会
➢ 県フライングディスク協会の協力の下、障がい者スポーツ指導員が運営し、障害当事者が参加する記録会を開催

成果

- 指導者及び競技運営会議参加者数：11名
- 陸上競技記録会参加者数：66名
- フライングディスク記録会参加者数：10名
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染対策を行い記録会を開催できた
- 記録会を地域の障がい者スポーツ指導員が中心となって運営することにより、指導員同士の横の繋がりができ、事業を継続するためのネットワークづくりができた

今後の課題

- コロナ禍での会議開催へのリモート機器の活用
- 陸上記録会では参加者が少数の地域や施設への訪問による参加促進
- 総合型クラブや障害者施設との連携を強め、事業協力や教室・イベント等への参加促進
- 東部地区でのフライングディスク記録会への参加促進

B 放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組

NPO法人
まほろばクラブ南国

山田特別支援学校

競技団体等

NPO法人こうなんスポーツクラブ

市町村社協

取組内容

- * 日常的な運動部活動へバレーボール等の専門指導者の派遣
- * 交流バドミントン大会（中止）
- * 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室
- * 児童生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント

モデルづくりの視点

- * 健常者と障害者が一緒に活動しやすくするための工夫
- * 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保
- * 総合型クラブや各取組の保護者や地域への周知

取組の概要

- ・バレーボール等の専門指導員等の派遣
➢ 専門指導者（障がい者スポーツ指導員）が特別支援学校に訪問し、部活動生徒に指導を実施
- ・休日や放課後を利用したスポーツ体験教室
➢ 休日・放課後に学校や総合型地域スポーツクラブ体育館を利用し、特別支援学校の生徒が参加するバドミントンやフライングディスクの体験会を実施
- ・多種目のスポーツ体験イベント
➢ 障害の有無に関わらず参加できるイベント（卓球、ゲッターライン、ミニトランポリン、ラダー、ミニハードル等）を実施

成果

- 日常的な運動部活動への専門指導者等の派遣への参加者数：47名
- 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室の参加者数：27名
- 児童生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント参加者数：500名（障害当事者0名）
- 事業の積重ねにより、生徒と講師との関係が良く、スムーズに生徒が活動できた
- フライングディスクの指導では、生徒がエントリーする大会内容に合わせた指導を行うことで、生徒の意欲が高まった

今後の課題

- 送迎バスの調整ができない場合の対応
- 生徒の集中力が持続する適切な練習時間の設定
- イベント前の広報及び集客活動
- コロナ禍での取組の継続

C 特別支援学校の在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者を主なターゲットとした取組や障害者スポーツの理解啓発の取組

NPO法人 クラブとさ

日高特別支援学校

高知若草特別支援学校

地域の福祉施設

市町村社協

取組内容

- * 障害者スポーツの理解促進に向けた広報事業
- * IT技術を活用した障害者のスポーツ参画機会の創出
- * 教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及
- * 障害当事者以外も巻き込んだ障害者スポーツ種目の体験・理解の促進

モデルづくりの視点

- * 総合型クラブの各取組についての保護者・地域の施設への周知
- * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫
- * リモートの効果的な活用

取組の概要

- ・障害者スポーツの理解促進に向けた広報事業
 - ▶ 障がい者スポーツ指導員が中学校でゴールボールを実施
- ・ITを活用した障害者のスポーツ参画機会の創出
 - ▶ リモート機器でスポーツクラブと障害者施設をつなぎ、施設入所者を対象とした講師による3B体操等の教室を実施
- ・教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及
 - ▶ 障がい者スポーツ指導員等を講師に特別支援学校（2校）の教員を対象としてシッティングバレー、ホッケー、ゴールボール、バドミントン、フライングディスクを実施
- ・障害当事者以外も巻き込んだ障害者スポーツ種目の体験・理解の促進
 - ▶ 車いすバスケットボールのクラブチームメンバーが講師となり特別支援学校生徒（1校）・保護者、地域住民等を対象として総合型地域スポーツクラブ体育館で車いすバスケットボールを実施

成果

- 障害者スポーツの理解促進の参加者数：11名
- リモート体操教室への参加者数：120名
- 教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及のためのスポーツ体験教室の参加者数：100名
- 障害当事者以外を対象とした障害者スポーツ種目の体験教室参加者数：20名
- ▶ 特別支援学校の生徒が初めて学校以外で他校生徒と練習試合による交流ができ、スポーツを継続する励みとなった
- ▶ 競技大会前に当該競技の体験教室で指導を受け、生徒だけでなく教員の方々も今後、学校で指導をするうえでよい経験となった

今後の課題

- リモート機器を活用した取組の際に、接続先とのコミュニケーションを活発にさせる工夫が必要
- 今後も総合型スポーツクラブで継続的に各種体験教室等を開催していくためには、受益者負担や保護者・学校等が参加費用を負担することの検討が必要
- コロナ禍での取組の継続

D 地域において障害者の持続可能なスポーツ活動につなげる取組

NPO法人
くぼかわスポーツクラブ

地域の福祉施設

町のボランティア協議会

市町村社協

教育委員会

取組内容

- * 地域の各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会
- * 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室
- * 各種種目体験教室発表会（中止）
- * 障害者福祉施設入所者と地域住民と一緒に体験できるスポーツ交流大会（中止）

モデルづくりの視点

- * 地域における支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保
- * 障害者福祉施設における日常的なスポーツ活動につなげる工夫
- * 本事業以外の活動や大会などへの参加につなげる工夫
- * リモートの効果的な活用

取組の概要

- ・地域の各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会
 - 障がい者スポーツ指導員や地域の指導者を講師として学校教職員を対象としたボッチャ講習会を実施
- ・地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室
 - 障がい者スポーツ指導員や地域の指導者が施設入所者や小学校児童を対象としてボッチャ、フライングディスクの体験会を実施

成果

- 地域の各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会参加者数：10名
- 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室の参加者数：98名（1施設リモート実施）
 - 指導者講習会を学校で実施したため、教員の方々が参加し易く、多数の参加があった
 - リモート機器の活用による開催もあったため、リモートでのスポーツ実施に理解が深まった
 - 障害者と健常者が一緒に活動することで、障害の有無を問わない場ができた。

今後の課題

- 指導者講習会等を実施していない学校への活動の横展開
- リモート開催時の施設側の機器操作の習得支援
- コロナ禍での取組の継続

まとめ

成 果

- リモート機器等を含む新たなスポーツ機会の提供により、学校や施設での活動以外にスポーツ活動を行うことがあまりなかった方々のスポーツ参加につながった
- 各取組において多くの関係者の協力を得て展開できたことにより、それぞれの活動の充実が図られるとともに、支援者の増加、関係者の連携の広がり、障害者及び障害者スポーツの理解の深まりにつながった
- 本事業をきっかけに関係者のネットワークが構築されたことにより、各団体の自主的な取組として展開していくための基盤をつくることができた

今後の課題

- 本事業で展開した各取組の継続及び普及に向けた、財源の確保や関係者のネットワークのさらなる強化
- コロナ禍でも、施設等でスポーツ活動を継続することができるリモート機器の活用促進
- 障害者のスポーツ活動のさらなる充実を図るために、県内各地域において障がい者スポーツ指導員の資格取得者を増やし、活躍できる機会を拡充することが必要

【連絡先】

〒780-0850

高知県高知市丸ノ内 1 丁目 7 番52号

高知県庁西庁舎

高知県文化生活スポーツ部

スポーツ課

主幹 北 敬二郎

電 話 : 088-821-4649

F A X : 088-821-4716

e-mail : keijirou_kita@ken4.pref.kochi.lg.jp